

マグウォールシリーズ施工要領書

- 『マグウォール』『マグウォールスクリーン』は、ホワイトボード機能のある壁紙シートです。
基材の石膏ボードやシナ合板等に施工することで壁面をホワイトボードとして活用することが出来ます。
- ホワイトボードマーカーで書き消しが出来ます。
- 磁石を付ける事が出来ます。 **(製品には金属粉が含まれており、磁石が付きます。)**
 - ▲磁石を使って、モノを固定する場合の注意点
両面パウチ品、フィルムなど厚みがあり、重いものは磁石の磁力が強くても保持出来ない場合があります。
- 化成品であるため、直射日光が当たると製品表面の変色、変質の可能性があります。
- 温度変化が激しい場所、直射日光や火や熱源、高温多湿となる場所、冷暖房の風が直接当たる場所、屋外での使用を避けてください。
- 下地の不陸・凹凸が表面に出やすいため、下地処理を入念に行ってください。**
- マグウォールシリーズは『非防火品』です。施工場所の制限がありますので、建築士や施工管理者にご相談ください。

1 下地確認

| | 適正 |
|--------|----|
| 石膏ボード | ◎ |
| ケイカル板 | ○ |
| ベニヤ合板 | ○ |
| シナ | ○ |
| ラワン | ○ |
| MDF | ○ |
| 非吸水性下地 | × |

●左記の適正表は、一般的な下地の状況に応じた参考資料です。
実施工に際しては、下地の状況を確認し、できれば試験施工されることをお奨めします。

●**下地の状態については、現場でよくご確認をお願い致します。**

▲非吸水性下地：金属板・塗装鋼板・塩ビ鋼板・ガラス・プリント合板・壁クロス等

2 施工前確認

- 製造ロット番号をご確認し控えてください。(ケース端面に記載) 万一トラブル発生の際には、ロット番号をお知らせください。



- 製品到着後、輸送時の破損、傷の確認をお願い致します。その後の責任は負いかねますのでご注意ください。
- ロット番号の違いにより、表面色に違いが生じる場合がございます。
- 施工現場の気温は、+5℃～+35℃の環境下で施工してください。低温環境下では接着剤が凍結する恐れがあり、高温環境下では接着剤の乾燥が早く接着不良を起こす恐れがあります。
- 暗所での施工は、エアや仕上がり欠点確認を困難にしますので、十分な明るさのある場所で施工してください。
- シートが厚く、接着後の剥離が懸念されるため、基本は平面貼り仕様です。
入隅、出隅はジョイントを行ってください。
- 埃や塵が仕上がり表面に突起を生じさせる原因となりますので、事前に作業場所周辺を清掃し、水撒きなどの防塵処理を行ってください。
- 本製品は一般の壁紙に比べても重くなっております。取り扱いには十分注意し、人数、作業スペースを十分確保してください。 *参考 重量：約12kg(5m巻き)**
- 製品表面は非常に折れや傷がつきやすくなっております。折れや傷がつくと修復不可能となりますので、取り扱いには十分ご注意願います。**
- 保管は平坦な場所に横置きで保管してください。縦置き保管は、製品端部のつぶれなど不具合の原因となります。

3 下地処理

【基材別下地適正・処置】

| | 適正 | 前処理 | パテ処理 | サンディング | 表面清掃 | シーラー処理 |
|--------|----|--|---------------|----------------------|-----------------|----------|
| 石膏ボード | ◎ | 釘・タッカーの 錨頭等の処理 | 下塗り、仕上げ 必要 | #120～#180 サンドペーパー | 刷毛・ウエス等 にて清掃 | ※1 必要 |
| ケイカル板 | ○ | 釘・タッカーの 錨頭等の処理 | 下塗り、仕上げ 必要 | #120～#180 サンドペーパー | 刷毛・ウエス等 にて清掃 | |
| ベニヤ合板 | ○ | 釘・タッカーの 錨頭等の処理 | 下塗り、仕上げ 必要 | #120～#180 サンドペーパー | 刷毛・ウエス等 にて清掃 | 必要 |
| シナ | ○ | 釘・タッカーの 錨頭等の処理 | 下塗り、仕上げ 必要 | #120～#180 サンドペーパー | 刷毛・ウエス等 にて清掃 | |
| ラワン | ○ | 釘・タッカーの 錨頭等の処理 | 下塗り、仕上げ 必要 | #120～#180 サンドペーパー | 刷毛・ウエス等 にて清掃 | |
| MDF | ○ | 釘・タッカーの 錨頭等の処理 | 下塗り、仕上げ 必要 | #120～#180 サンドペーパー | 刷毛・ウエス等 にて清掃 | |
| 非吸水性下地 | × | ▲金属板・塗装鋼板・塩ビ鋼板・ガラス・プリント合板・壁クロス等への 施工は避けてください。(ペルビアン・BWHシリーズを推奨いたします。) | | | | |

◎：施工できる下地

○：施工できるが、下地の劣化具合・強度の確認が必要な下地（反り・突き上げ等注意）

×：施工できない下地

※1：下地の状態（下地表面が粉っぽい）によっては、シーラー塗布回数を増やしてください。

【推奨下地剤・接着剤】

ウォールボンド工業(株)製

| 分類 | パテ | | シーラー | 接着剤 |
|----------|---|-----------------------|---|---|
| | 下塗り | 仕上げ | | |
| 製品名 | トライ60 | トライ60 | シーラーセットアップ | ウォールボンドEV-30 |
| 写真 |  | |  |  |
| 塗布方法 | パテベラ | | 刷毛・ローラー | 砂骨材ローラー |
| 目安塗布量 | 70～100g/m ² | 60～90g/m ² | 80～100g/m ² | 200g/m ² |
| 使用方法 | 1袋(3kg)に対し水1.9～2.1ℓ | | 3倍希釈 | 原液で使用 オープンタイム不要 |
| 乾燥時間(目安) | 1時間 | | 夏期(23℃以上) 0.5～1時間 冬期(23℃未満) 3～4時間 | — |
| F☆☆☆☆ | 日本建築仕上材工業会 登録番号 0904027 | | JAIA 005891 | JIS A6922 |

●向こう糊のため貼り起こすとパテが剥離する場合があります。これを防止するため必ずシーラー塗布を行ってください。

●下地処理に関しては、基材別下地適正・処置をご覧ください。

●貼付け面の汚れ、油、水分、塵埃、壁クロスおよび裏紙等を**完全に除去**してください。

●推奨品以外を使用されるには、施工条件が異なる場合がある為、各パテ・シーラー・接着剤それぞれのメーカーにお問い合わせください。

3 -1 新設の場合

【手順】

①ジョイント部へのシーラー処理



②下地補強テープ



③下パテ処理1 (テープの中まで)



④サンディング (段差をなくす)



⑤下パテ処理2 (テープ面均し)



⑥サンディング (段差をなくす)



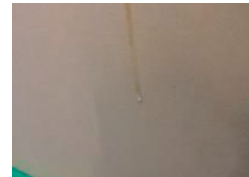
⑦上パテ処理・サンディング



⑧シーラー処理



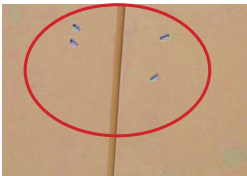
▲シーラー処理欠点例 (液だれ)



▲パテベラ・サンディングにて除去してください。

●下地処理により、凹凸は完全に無くしてください。

パテ処理前



下パテ処理後 (上パテ時均す)



パテベラ



●パテを塗布した部分が完全に乾燥後、サンディング・シーラー処理を行ってください。

●綺麗な仕上がを求める場合に、継ぎ目やビス穴の凹みをパテで埋めサンディングで平らにすることでフラットで綺麗な壁を作ることができます。

【仕上がり見本】



▲パテ処理

ビス穴・タッカー・つなぎを埋めてください。

仕上がり段階で凹みや段差となり表面状態を損ねてしまいます。

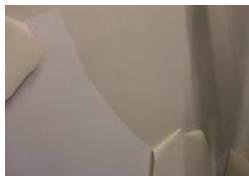
▲シーラー処理

吸い込みが大きい下地などはシーラーを塗らないと接着剤が下地に吸われ接着不良となりフクレが発生してしまいます。

3 -2 貼替の場合 (壁紙を剥がして施工する場合)

【手順】

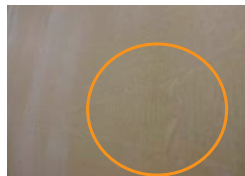
①既存の壁紙を剥がす



②裏紙の除去※1

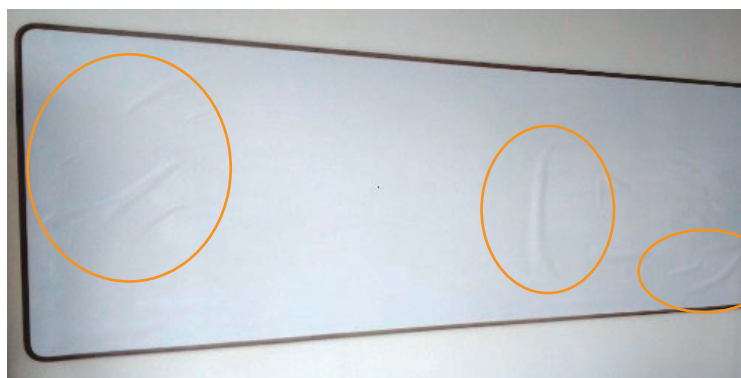


▲裏紙によるフクレ例



※1 裏紙が残っている場合は霧吹きや濡らしたウエス等で湿らし除去してください。

【裏紙によるフクレを除去しなかった仕上がり】



③その後は新設作業手順通り

●下地の不陸が表面に出やすいため、パテ処理を入念に行ってください。

【問題となる施工例】

①段差痕



②養生テープ痕



③ゴミ・釘痕



▲基布の目が表面に現れることがありますが、下地不良による不陸ではありません。

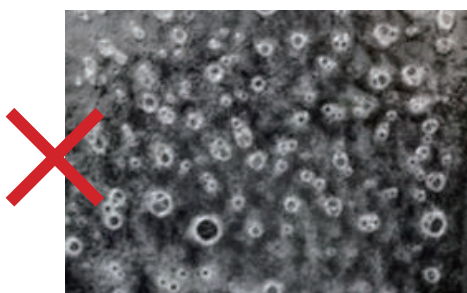
4 糊付け

【糊付け推奨品】

塗布用砂骨材ローラー（砂骨材部）



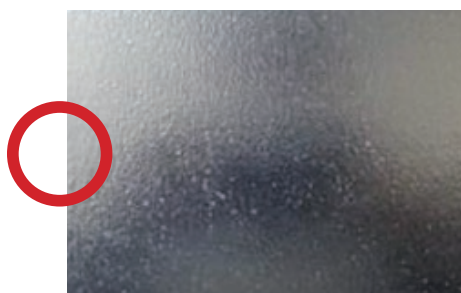
▲粗目のローラー仕上



コーナー塗布用ローラー



▲細目ローラーで表面を均等に塗布



- 接着剤は必ず均一になるよう塗布してください。均一でない場合、場所により接着力が変わり、接着力不足の場合、施工後のフクレの原因となります。
- また接着剤の不均一部分が表面波打ちとなって現れ外観を損ねる原因となります。

【手順】

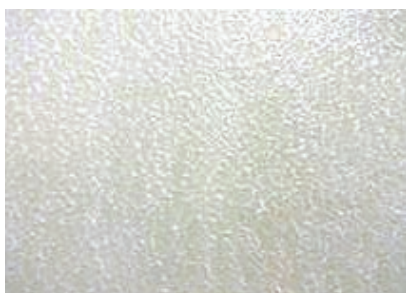
①テープにて養生



②接着剤塗布



接着剤塗布面の写真



- ▲ 櫛目ゴテ等のみでの塗布は施工後、凹凸が目立つ事があります。ローラーで均一にしてください。

5 貼付け・エア抜き

【エア抜き推奨品】

スムーサー



ローラーバケ



ハイタッチローラーウレタン



スキージー専用保護パット



【手順】

①仮押さえ



②エア抜き(内側から外側へ)



③速やかに



(この施工例では向かって右から左にシートを広げています。)

- シートを巻きのまま貼り付け面までもっていき、1mを目安に巻きほぐしながら貼付け・エア抜きを行ってください。
シートを広げた状態で持ちますと持ち手部分での折れが発生します。
一度折れが発生しますと修復できません。
- オープンタイムは必要ないので糊付け後速やかに貼付けを行ってください。
糊の表面が乾燥しますと接着強度不足になり、フクレの原因となります。
- 通常の壁紙のエア抜き以上に慎重に行ってください。
ナデバケでは圧着不足となります。

【端部仕上げ 手順】

①圧着



②カット ※1



③コークボンド仕上



※1 カットする際は立ち上がりが残らないようにしてください。
立ち上がりが残りますと仕上がりが悪くなります。

- シート裏面、接着面に付着した異物を取り除いてください。
- 製法上、端面の蛇行が発生します。必ず現場にて端部をカットして使用ください。
- エア抜きはスムーサー等の道具を使って、内側から外側へ向かって行ってください。
ただし、先端が硬質のものはシート表面を傷つける恐れがありますのでスキージー専用保護パット等を先端に取り付け作業を行ってください。
- 平面のローラー圧着は痕が残らないように慎重に行ってください。
- 端部に養生テープ等で仮止め等脱落防止の処置を行ってください。

6 ジョイント

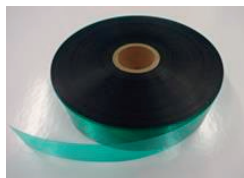
▲壁紙と違い本製品は厚みがあり、磁性シート部が黒色であるためジョイント部は目立ちます。目線を避けた箇所へ、比較的ジョイント部が目立ち難い重ね切りジョイントを推奨します。

【推奨品】

・ハイタッチローラーウレタン



ジョイント用下敷きテープ (厚目)

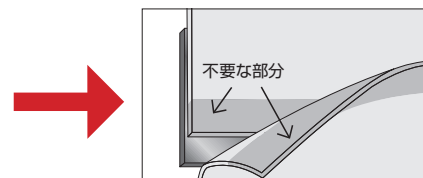


【手順】

①接着剤塗布後、下敷きテープ貼 ②1枚目貼付け

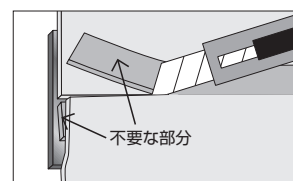
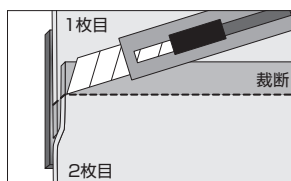


③接着剤塗布後、2枚目貼付け



▲推奨下敷テープは接着剤を拾いませんが他のテープは材質により接着剤を拾うことがあります。その際は接着剤の追加塗布を行ってください。

④物差しでの押し重ね切り



⑤下敷テープ除去



▲下敷きの材質により、除去した際に接着剤を拾ってきたら接着剤を追加塗布してください。

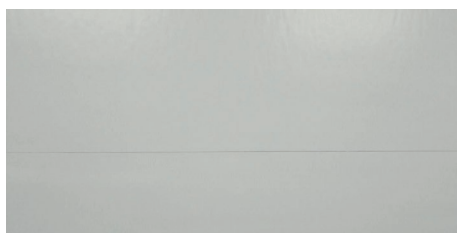
⑥接合



⑦圧着



⑧仕上がり



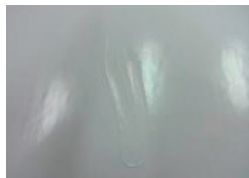
▲ジョイント箇所は下地を切らないよう厚めの下敷きを使用してください。
▲重ね切りの際はカッターの刃を抜かないようにしてください。刃を抜いてしまうとジョイント部が目立ちます。



7 清掃

- 施工時の表面（ホワイトボード面）に付着した接着剤等の汚れは、都度水で濡らしたウエス等で完全に拭き取ってください。
- 施工後は全面を必ず濡らしたウエスで完全に拭いてください。接着剤等が付着しておりますと書き消しできなくなります。

表面接着剤のこり



そのまま使用



インクが消せません



- 硬化してしまった接着剤の除去は熱いおしぼりで蒸らし除去したり、市販のボードクリーナーで清掃してください。



▲テープ等でも剥すことができます。

- ジョイント部では接着剤がはみ出しやすいので特に注意してふき取りを行ってください。
- 施工後接着剤硬化前にドライヤー等の急激な温度変化を与えると表面フクレの原因になります。
- 施工後は1～2日は養生期間を設け使用を控えてください。
- ジョイント部分には書き消したインクが残りやすいため、定期的な清掃をお勧めします。
- 有機溶剤、洗剤等によるホワイトボード面のクリーニングは表面を変質させる恐れがあります。影響のない部分で確認を行ってからご使用ください。

施工例



施工場所 縦2.4m×横4.5m
横貼り3段（2か所ジョイントあり）

（問合せ先）

 **タキロンシーアイ株式会社**

高機能材事業部 東京高機能材営業G
〒108-6031 東京都港区港南2-15-1
TEL 03-6711-3730